平成18年10月「未来へと　技のかけ橋　香川から」を大会スローガンに，「2006　技能五輪＆アビリンピックin かがわ」が香川県高松市で開催された。10月20日から23日まで開催された第44回技能五輪全国大会は，23歳以下の青年技能者が日ごろ鍛えた技を競い合った。また，第29回アビリンピック（全国障害者技能競技大会）は，障害のある人の職業能力開発を促進し，技能者としての自信と誇りを持って社会に参加するとともに，広く社会の理解と認識を深め雇用促進を図ることを目的に， 10月27日から29日まで開催された。
今回は競技委員等でかかわった立場から，それぞれの大会の模様を紹介する。

香川大会におけるアビリンピックの取組み

四国職業能力開発大学校　森本　一優・榎本　実・行武　俊和
奥田　佳史・中村　美利

1．はじめに

障害のある人の職業能力開発を促進し，技能労働者としての自信と誇りを持って社会に参加するとともに，広く社会の理解と認識を深め，障害のある人の雇用促進を図ることを目的に「全国障害者技能競技大会」（以下アビリンピック）を開催している。第１回大会は昭和47年に開催され，それ以降，国際アビリンピックが開催される年を除いて毎年開催されており，2005年までに28回実施している。

また，第１回から第25回まで千葉県を舞台に開催されてきたが，第26回より全国的に障害者の雇用促進に関する機運を盛り上げようと，地方都市で開催されるようになった。これまでの開催年・開催地および実施競技数を表１に示す。

第29回を迎える今大会は香川県で開催され，四国では初めてとなる。「未来へと 技のかけ橋 香川から」をスローガンに，10月27日（金）から29日（日）までの３日間開催された。今大会は2007年11月静岡県で開催予定の第７回国際アビリンピック（2007年ユニバーサル技能五輪国際大会として第39回技能五輪国際大会と同時開催）のプレ大会としての位置づけのほか，国際アビリンピックへ派遣する選手の最終選考を兼ねた大会である。

表１　アビリンピックの開催年・開催地・種目数

回数	開催年	開催地	種目数
第１回～第25回	1972年～2001年	千葉県	15～21
第26回	2002年	熊本県	21
第27回	2004年	宮城県	20
第28回	2005年	山口県	23

2．参加資格

アビリンピックの参加資格は，次の⑴～⑷のすべてに該当する者で，都道府県知事の推薦を受けた者である。

⑴　対象障害者の種類

①　障害者の雇用の促進等に関する法律第２条第２号および第３号に規定する身体障害者で身体障害者手帳所持者。

②　障害者の雇用の促進等に関する法律第２条第４号同法施行規則第１条の２に定める知的障害者。

③　障害者の雇用の促進等に関する法律第２条第６号同法施行規則第１条の４に定める精神障害者。

⑵　平成18年４月１日現在15歳以上の者

⑶　第29回大会開催前４ヵ月以内に医師の診断を

受け，競技参加について適当と認められる旨の証明された者

(4) 参加を希望する種目において，過去28回の大会で金賞を受賞したことがない者

なお，第15回までの大会で「日本語ワード・プロセッサ」種目における金賞受賞者および第24回までの大会で「日本語ワード・プロセッサ（一般部門）」種目における金賞受賞者は，第29回全国大会で実施する「ワード・プロセッサ」種目の金賞受賞者とみなす。

また，第25回までの大会で「CAD」種目における金賞受賞者は，「機械CAD」種目の金賞受賞者とみなす。

3．競技種目

第29回大会では，28種目の職業技能競技種目と，4種目からなる生活・余暇技能競技種目の32種目を実施する。表2は今大会の競技種目を示す。

表2　第29回大会競技種目

●職業技能競技種目	
洋裁	コンピュータプログラミング
洋服	パソコン組立
家具	精密板金
DTP	写真撮影
機械CAD	フラワーアレンジメント
建築CAD	籠制作
電子機器組立	木彫
電子回路接続	機械組立
パソコン操作（視覚障害者に限る）	ポスターデザイン
義肢	貴金属装身具
歯科技工	縫製（知的障害者に限る）
ワード・プロセッサ	木工（知的障害者に限る）
データベース	喫茶サービス（知的障害者に限る）
ホームページ	パソコンデータ入力（知的障害者に限る）
●生活・余暇技能競技種目	
絵画	編物
陶磁器	刺繍

4．競技専門委員の業務内容

競技種目は全部で32種目ある。各種目には競技専門委員が3～6名配置されている。競技専門委員の業務内容を表3に示す。

表3　競技専門委員の業務内容

- 競技課題，採点基準および採点表の作成
- 競技概要の説明パネル原稿作成
- 競技会場の配置図の作成・確認（機器・電源（容量の指示）等の配置含む）
- 競技用機器および材料の検討・決定
- 競技用機器および材料の準備・調整
- 大会前日の競技関係者打ち合わせへの出席
- 競技会場の設営・確認
- 種目別競技スタッフミーティングにおける注意事項等の連絡
- 競技中の選手・競技スタッフの総括・監督
- 競技会場の下見（機器等抽選・持参工具の審査・機器等調整）における監督
- 選手に対する競技方法および注意事項の説明
- 競技結果の審査・採点
- 採点結果の授賞選考委員会への報告
- 金賞作品展示における立会・競技結果の説明
- その他競技の円滑な実施に必要な業務

5．地元競技専門委員の取組み

前年度，今年度の取組みおよび各競技種目の取組みの3項目に分けて記述する。

5.1　前年度（2005年度）の取組み

香川県での全国大会を次年度（2006年度）に控え，香川県および地元競技専門委員（この時点では候補者）の取組みを表4に示し，詳細を記述する。

① 競技専門委員研修会

競技専門委員候補者が県庁に集合し，初めての研修会が開催された。全国および香川県の障害者雇用状況を聴講した後，アビリンピックの概要，競技専門委員の役割，山口大会での実地研修および香川大会の概要等について話された。

② 香川ものづくりフェスタ2005

表４　前年度（2005年度）の取組み

年　月	研修・大会　等
2005年07月	競技専門委員研修会
2005年09月	香川ものづくりフェスタ2005
2005年10月	アビリンピック山口大会
2006年02月	香川県障害者技能競技大会（全国大会予選）
2006年03月	全国大会予定施設の現地説明会 （地元競技専門委員のみ）

次年度に開催する「2006技能五輪＆アビリンピックin かがわ」の成功に向けて，大会関係者，関係機関・団体の連携，結束を図るとともに，広く県民に大会への理解と開催機運を盛り上げるため，１年前プレイベントを開催した。一部の競技種目では出場選手による公開練習が行われ，出場選手への技術・技能指導を実施した。その様子を図１に示す。

図１　香川ものづくりフェスタ2005

また当大学校からは，虫ロボット競技大会の開催，標準課題（ピック＆プレイス装置，整列分離コンベア制御システム，パレタイジング装置）および開発課題（トスロボット）の展示・実演を行い，「ものづくり」への関心を高めるイベントを実施した。

③　アビリンピック山口大会

次年度開催を控え，地元の競技専門委員候補者が山口県での実地研修を行うことにより理解度を深め，次年度に備えて円滑な競技運営を図ることを目的に実施された。山口大会のオブザーバーとして，主に競技専門委員周辺において，競技会場や機器等の準備状況および競技運営について実地研修を行った。実地研修で得られたことを香川県事務局（以下県事務局）に報告し，次年度の香川大会に向けて，運営方針の基礎と位置づけた。

④　香川県障害者技能競技大会（全国大会予選）

14種目45名の競技参加者のもと，２月12日（日）に開催された。該当種目の中に全国大会の競技専門委員候補も含まれており，事前に競技課題作成等に取り組み，県大会当日は競技監督，審査・採点等を行った。この大会の上位入賞者は，10月の全国大会に出場することとなった。その様子を図２および図３に示す。

図２　香川県障害者技能競技大会（１）

図３　香川県障害者技能競技大会（２）

⑤　全国大会予定施設の現地説明会

競技専門委員主査が５月に来県するのに伴い，県事務局および地元競技専門委員候補者のみで，全国大会予定施設の現地説明会および実地調査が行われた。３日間に分けて実施され，県事務局の説明後に全員で実地調査を行った。当日の競技実施の問題・留意事項が話し合われた内容をもとに，報告書として県事務局に提出した。なお５月の競技委員会専門部会で，競技専門委員主査にも意見をいただき，競

技会場の修正等をかけることになる。

5.2　今年度（2006年度）の取組み

香川県での全国大会に向けて，香川県および地元競技専門委員の取組みを表5に示し，開催直前までの詳細を記述する。

表5　今年度（2006年度）の取組み

年　月	研修・大会　等
2006年04月	競技委員会専門部会（第1回）
2006年04月～09月	地元選手強化練習会
2006年05月	競技委員会専門部会（第2回）
2006年10月	地元競技関係者説明会

①　競技委員会専門部会（第1回・東京）

競技専門委員が一同に介し，アビリンピック香川大会に係る第1回目の専門部会が東京で開催された。競技委員長あいさつの後，大会概要・各専門委員の業務内容・競技課題作成を中心に話された。また国際アビリンピック派遣委員会専門部会についても，国内の専門部会終了後に同じ場所で開催された。

②　地元選手強化練習会

開催までの間，4回に分けて地元選手による強化練習会を実施した。過去の競技課題およびそれを踏まえての練習課題をこなしていただき，出場選手への技術・技能指導を実施した。また選手への意思・疎通が図られるように，休憩時間等においても気軽に会話するよう心がけ，選手が安心して練習できる体勢を整えた。

③　競技委員会専門部会（第2回・高松）

前年度3月に開催された地元競技専門委員による現地説明会を踏まえ，競技専門委員主査を加えての第2回目の専門部会が高松で開催された。4月の専門部会を踏まえ，今後の日程および競技課題説明用パネル作成について話された。専門部会終了後に全国大会会場予定施設の現地調査を行い，各競技種目のレイアウトや広さ・採光・照度等に至るまで細部にわたり調査が行われた。競技専門委員からの要望や意見を踏まえて県事務局に報告し，会場設営を行うことを確認した。

④　地元競技関係者説明会

アビリンピック香川大会を直前に控え，開催準備に万全を期すため，地元競技専門委員，競技補佐員および競技別連絡員による説明会が開催された。競技補佐員および競技別連絡員が初めて説明会に参加するのに伴い，全体で紹介ビデオ上映の後，大会概要，大会当日の業務日程および業務分担を中心に話された。その後の競技種目ごとの説明会は，地元競技専門委員を中心に，競技種目の概要，競技会場等の連絡・指示および競技当日の諸注意を行った。

⑤　その他

大会を直前に控えて，学生に「技能五輪・アビリンピック」のことを知ってもらうために，開催前にパンフレット配布および広報を行った。特に技能五輪に関しては，ほとんどの学生が参加資格対象者に該当し，主な目的として，技能五輪およびアビリンピックとも，ものづくりの競技風景を実際に見てもらい，今後の大会に向けての参加意欲を促すためである。

5.3　各競技種目の取組み

地元競技専門委員が大会前までに取り組んできた各競技種目について，共通事項に関して記述する。

①　競技課題作成について

競技課題には，大会前に「独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構」のホームページにて事前に公開される競技課題Ａと，大会当日に配布され競技を行う競技課題Ｂの2種類を作成する必要がある。競技課題Ｂは競技課題Ａの基本要素を含みながらも，当日においてその場で解決する必要がある要素を付加したものとなっている。競技課題Ａが確実に準備できていないと競技課題Ｂの試合当日競技時間内での作品完成は困難である。4月の専門部会においては，前年度の競技課題Ａ，競技課題Ｂおよび競技参加者の技術レベルについて話し合い，香川大会において適切と思われる課題について競技専門委員の間で意見を出し合った。香川大会の課題は次年度静岡での国際大会のベースとなることからも，課題レベルを慎重に設定する必要があることが確認された。また作成の際，著作物が存在しているものに関しては，あらかじめ競技課題に使用するための許諾を著作元に得た後に課題作成に取り組んだ。最終的には競技

専門委員主査が課題内容について意見を取りまとめ，競技課題Ａと競技課題Ｂを作成した。一部の競技種目に関しては，完成した競技課題は中央能力開発協会への審査にかけられ，承認される運びとなる。

② 強化練習会について

地元香川県での全国大会開催ということで，県事務局から強化練習会の依頼があり，地元選手に前年度の競技課題，それを踏まえたうえでの練習課題の取り組み，これらの質問および競技課題に関する詳細の注意事項等を含めて，４月・６月・８月・９月の計４回に分けて技術・技能指導を実施した。練習課題作成では著作物に接触しないように，政府または独立行政法人が発行した白書関連を基本とし，過去の競技課題および書籍等で記述されている機能設定を加えながら，練習課題を作成してきた。また選手への意思・疎通が図られるように，休憩時間等においても気軽に会話するよう心がけ，選手が安心して練習できる体勢を整えた。なお，最後の強化練習会では山陽新聞社，NHK（日本放送協会）からの取材があり，その日の四国内のニュースで報道された。山陽新聞社から取材を受けたときの記事を，図４に示す。

③ 競技補佐員について

６月下旬に県事務局・競技主査の一報を受けてから取組みを始めた。まず地元競技専門委員がいる該当科内の会議で，競技補佐員選出の趣旨説明を行い，取組み方を協議した。まず当大学校内の部内講師の依頼を行い，その後当大学校にお世話になっている部外講師にも依頼を実施した。さらに緊急事態のことも想定したうえで，応用課程（一般大学でいう３年と４年）の学生にも依頼をかけて競技参加の可否を質問した。おかげさまで当大学校内では部内・部外講師および応用課程の学生の協力を得て補佐員を確保でき，県内に関しても県技術校および民間企業からも補佐員を確保できた。

④ その他

競技種目によっては競技概要の説明パネル原稿作成，競技用機器および材料の検討・準備等，必要な備品をリストアップし，高齢・障害者雇用支援機構および競技主査に連絡した。競技に備えてトラブル

代表選手が合同練習

高松 アビリンピック控え

十月に高松市で開催さ
れる「第二十九回全国障
害者技能競技大会（アビ
リンピック）」（県など
主催）を約一カ月後に控
えた十八日、代表選手の
合同練習会が高松市郷東
町の香川地域職業訓練セ
ンターで行われ、大会で
の成績に向けて本番さな
がらの練習に挑んでいた。

代表選手は三月に行わ
れた県の選考会を突破。
四月以降、三回の合同練
習に参加しており、大会
を約一カ月後に控えた今
回は、制限時間内に課題
の設定を自指すなど、よ
り本番に近い形での練習
に真剣な表情で取り組ん
でいた。

アビリンピックは十月
二十七日から三日間、高
松市林町のサンメッセ香
川を主会場に開催され
る。三十三職種に各都道
府県の代表約三百十人が
出場する予定。

（横本直樹）

本番さながらに練習課題に取り組む代表選手

図４ 山陽新聞 平成18年９月21日朝刊（香川版）

が起きても対応ができるよう，万全の準備を整えた。

６．アビリンピック香川大会

アビリンピック香川大会開催を迎え，競技専門委員の取組みを表６に示し，詳細を記述する。

表６ アビリンピック香川大会

	取組み事項
前日	会場設営，機器等設置
第１日目	午前は最終確認の打ち合わせ 午後は選手競技会場下見立会い
第２日目	競技実施 終了後，競技採点および機材撤収
第３日目	選手への対応，閉会式参加

① 大会前日（10月26日（木））

14時に競技専門委員および競技補佐員（以下競技スタッフ）が集合し，全員が揃い次第，会場設営および機器等設置を行う。午前中に図面どおりの設置が完了していたので，競技スタッフはIDカード・競技スタッフ用ジャンパーを受け取ったのち，大会においての注意事項，および競技で使用する機器の動作確認を実施した。さらに競技スタッフ全員と事務局と協議して，図面どおりの配置から一部変更を行い，選手が集中して競技に取り組めるよう，配置修正を実施した。

② 大会第１日目（10月27日（金））

開会式の様子を図５に示す。

選手が開会式に出席している間，午前は選手競技会場下見の立会いに関する注意事項および翌日の競技実施に関する最終打ち合わせが行われた。前者は技術的なこと，競技課題Ａに関すること等に対して

図５　アビリンピック開会式

図６　競技風景（サンメッセ香川）

の質問があった場合の対応，タイムスケジュールに沿っての選手，競技専門委員および競技補佐員の行動方法について確認した。後者は選手に使用機器の動作確認を行い，その後選手が翌日の競技に向けて，練習の立会いを閉館近くまで対応した。

③　大会第２日目（10月28日（土））

競技はサンメッセ高松，サンポート高松および高松市総合体育館の３会場で，９時から同時に開始され競技種目ごとの終了時間が異なるものの，16時までにすべての競技が終了した。その様子を図６・図７および図８に示す。

選手が撤収した後に採点が行われ，規定の競技課題に忠実に再現されているか，全体の体裁が整えられているか，動作確認等が採点のポイントで，競技スタッフ全員で対応した。

各競技種目の競技結果，金賞・銀賞・銅賞および努力賞の選定に関しては競技専門委員のみで行い，金賞・銀賞および銅賞に関しては上記に関することおよび得点結果から選定し，努力賞に関しては障害の度合いやメダル圏内なのに惜しくも逃した方を考慮して選定された。

④　大会第３日目（10月29日（日））

前日の各競技種目による成績発表および金賞作品展示を，９時から閉会式会場であるサンポートホール高松大ホールで行われた。競技専門委員で対応を行い，選手等から競技結果および今後の練習方法等についての質問および意見交換がなされた。

10時から閉会式が行われ，主催者あいさつの後，表彰式が行われた。その様子を図９に示す。

競技種目ごとに，金賞・銀賞・銅賞および努力賞

図７　競技風景（サンポート高松）

図８　競技風景（高松市総合体育館）

図９　アビリンピック閉会式

の選手が紹介され，金賞・銀賞および銅賞受賞者はプレゼンターからメダルがかけられたほか，努力賞には楯が贈られた。

また技能検定２級（実技部門），コンピュータサービス技能評価試験２級およびCADトレース技能審査（実技部門）の合格者の発表は，時間の都合上人数のみ公表された。

最後に大会名誉会長の香川県知事から次回２年後の開催県である千葉県への大会旗引継ぎとあいさつで，３日間の日程で行われた大会を終了した。

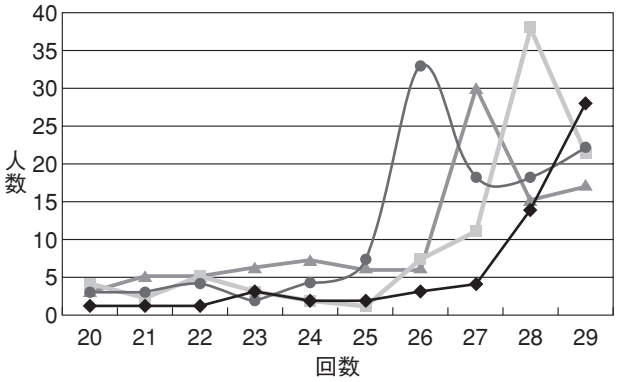
７．おわりに

アビリンピック香川大会の結果，地元香川県は金賞１個，銀賞４個，銅賞２個および努力賞４個と過去最高の成績を収め12月の第７回国際アビリンピック選考会において，香川県から４名の選手が派遣候補として決定した。また惜しくもメダルを逃した選手も前年度に比べて，技術力の向上がうかがえた結果で，次回に向けての弾みをつけていただければと思う。

香川大会への競技専門委員としての取組みは，競技の実施に係る専門的な業務や，障害者に対応した環境づくりなど，大変勉強になった。また，最終日に何人もの参加選手から笑顔で「次の大会もがんばります」との声を聞くことができたことで，この大会が選手たちにとって大きな励みになっていることも感じ取ることができ，われわれも競技専門委員として協力できたことを嬉しく思った。香川大会を通して，障害を乗り越えて高い技能を身に付けた選手たちと接する機会を得たことは大きな刺激になった。

香川大会は，次年度静岡で開催される国際大会への橋渡しとなる課題で，競技者のレベルも上がっており適切な課題レベルであった思う。今大会を含め過去２回の金賞受賞者の活躍に期待したい。

図10は最近10回分，アビリンピックが地方で開催された開催県の参加人数をグラフで示す。第29回に関しては，次年度静岡での国際大会強化選手を含めての人数である。



（◆：香川県，■：山口県，▲：宮城県，●：熊本県）

図10　最近10回分のアビリンピック参加人数

図10からアビリンピックの地方開催は，力の入れ方が特別に取り組まれたことで，その後の大会においても２桁の数値を表している。これは全国大会が地方で開催された後も，県内において広く普及された証で，一般の人と同じようにできる証でもある。今大会を一過性にするのではなく，これを出発点として普及活動を行い，また今後もより多くの人の目に触れるために，全国開催を地方でも継続して実施していただきたい。それから参加人数を増やし，障害者の活躍の場が増えることを期待したい。

最後に独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構，香川県をはじめとして，アビリンピック関係者の皆さま方に感謝の意を表する。

＜文献＞

１）内閣府　平成18年版　障害者白書
２）職業能力開発技術誌 技能と技術 Vol.41 第29回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）
３）独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 第28回アビリンピック山口大会報告書
４）社団法人 香川県障害者雇用促進協会　かがわ雇用の広場 2006.3.No.71
５）2006技能五輪・アビリンピック inかがわ http://www.pref.kagawa.jp/gorin/
６）山陽新聞　平成18年９月21日朝刊（香川版）